

にいがた

北から南から



分かんると、次に交配する時の参考になります。花卉の形は、種子親（母親）に似る傾向があります。花色に関しては、どちらかというと花粉親（父親）に左右される傾向にあるようです。

どんな形のどんな色の花を咲かせたいか狙いを絞って、種子親、花粉親を選び理想の花をめざしたいと思います。

・クリスマスローズを通して交流

育種をしていると鉢数が増えて置き場所がなくなってきたので、ご近所の花好きの人や知人に差し上げました。

「今年も咲いたよ」

「植え替えば、どうするの?」

「用土は、どんな土がいいの?」

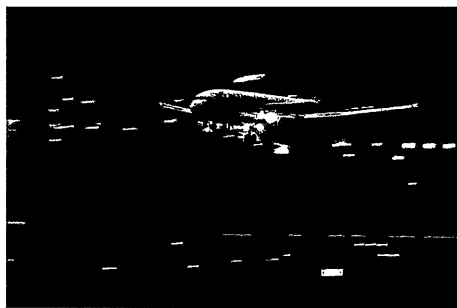
花談義で交流を深めています。

来年こそは、自分の思い描いている花が咲くことを期待して!

くまがい あきお 新潟市

趣味の写真撮影

野口耕作



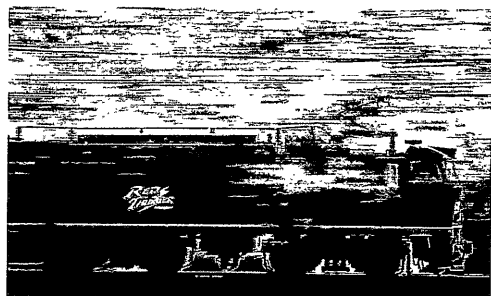
「日没後の新潟空港」

カメラを触り始めたのは中学生の時分からです。その頃は鉄道関係が主な被写体でした。定年を迎えてからようやく作品といえるも



のを撮ってみようと思うようになり、公民館で活動している写真クラブに入りました。そこでプロの写真家から指導を受け、基本から学び直すことになりました。やはり基本的なセオリ―を身に着けることが必要だと感じました。

これを機会にそれまで使用していたフィルムカメラをデジタルカメラにほぼ切り替えました。デジタル一眼レフをメインに使用して



「桜下疾走」

いますが、車を使わない旅行の時は軽量のミラーレス（マイクロフォーサーズ規格）カメラを使用しています。

被写体としては、もともと乗り物が好きだったので、鉄道や飛行機が多いのですが、著名な写真家が撮った白鳥の写真を見て、その表現方法に大きな刺激を受けました。その作品には及びもつきませんが、自分なりに白鳥が飛ぶ躍動感を表現するために工夫を重ねてきました。4分の1秒前後のスローシャッター



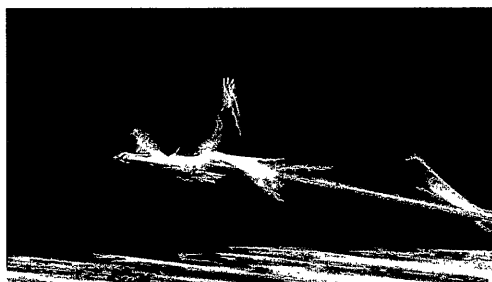
「バイクで溢れるハノイ市内」

にいがた

北から南から



を使うので、成功率はせいぜい1%あるかないかですが、多くのコマから一つでも決まったものがあれば喜びもひとしおで、撮影地までの往復100kmも苦になりません。白鳥以外の被写体でも、なんとか自分なりの表現ができないかと考えながら撮影をするようになります。



「白鳥の羽ばたき」

写真をはじめてよかったと思うことは、人間の目では表現できないものを画像にできると

いうところに、写真の面白さを見つけたことです。また、写真を通してこれまでにはなかった交友関係が広がったこともあげられます。現在はデジタルカメラも急速に進化し、様々なシーンに合わせて失敗なく撮れる機能も備わってきているようですが、やはり撮る人の感性や意図といった要素は欠かすことができないと思います。

そういう意味ではまだまだ修行が足りないのですが、いろんな人の作品を観たり自分の作品の講評をしてもらったりしながら学んでいきたいと思っています。

※現在石山公民館で、写真教室「フォトクラブ写真」を月2回開いています。

毎月第1・3火曜日 13:15～16:30

初心者の方も大歓迎です。

(のべちこうさく 新潟市)